

第 42 回 山口県学校環境衛生研究大会

第 3 課題：喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、くすり教育について

報告：小林晃子

① 小学校での薬物乱用防止教室の進め方

小学校における薬物乱用防止教室だが、様々な事を一方的に伝えようとする子供たちは理解できずにぼんやりとして、興味・関心がなくなってしまう可能性がある。そのため、クイズ方式にして子供達が積極的に発言したり、周りの友達と一緒に答えを導いたりすることができるよう様々なスタイルをとっている。

授業の目的は、薬物乱用防止なのだが薬物だけを取り上げているわけではない。お酒・たばこはゲートウエイドラッグとして挙げられるので、半分以上の時間を割いて説明している。

・お酒について

問 1 一気飲みをすると脳がマヒ状態になり命を落とす。飲酒を続けると脳が委縮することも説明する。

問 2 酒の主成分は何かを言ってもらおう。

問 3 飲酒可能年齢についての質問。国（アメリカ）によって飲酒可能年齢が違うことも伝える。

問 4 お酒を飲んでの自転車運転は、飲酒運転になるか考えてもらう。

問 5 アルコール依存症について。本人は依存症と認めがらず、実際に治療をされている方は少ないことを伝えている

まとめ：お酒は二十歳になってからほどほどに。一気飲みはしない、勧めない。飲酒運転は「ダメ、絶対！」

・たばこについて

主流煙と副流煙はどちらが有害か考えてもらう。解説する際には、どの成分が何倍有害性があるかをしっかり説明する。

家族の喫煙で発がんリスクは増えるかどうかについて考えてもらう。

ニコチン中毒について。自分の意志のせいではなく、病気ととらえるように伝える。

たばこと美容について。タバコを吸い続けると老化が加速することについて写真を見ながら説明する。

まとめ：たばこは、とにかく吸わないように！

・薬物について。

DVD 鑑賞

② 高等学校における薬物乱用防止教室事例

全学年を対象に毎年開催している。また、毎年、事前アンケートを取っている。

薬物乱用防止教室は次の 3 部構成で行っている。

- 1 くすりの正しい使い方、カラーコンタクトレンズの取り扱いについて
- 2 アルコールやタバコについて
- 3 乱用されている薬物について

毎年、保健委員の生徒にロールプレイをしてもらう。

誘われたときどう断るか、生徒自身に体験させることで興味をひかせる。

まとめ：養護教諭との事前打ち合わせ、内容の確認をしっかりとる。

毎年のロールプレイだが、誘い役を教師が、誘われ役を生徒が行うため盛り上がる。このように生徒自身が興味を持って聞いてくれるということは大事なことだと考える。同調しがちな思春期の高校生にとって断り方を練習することは非常に重要。

③ 学校薬剤師と連携したくすり教育の充実~厚東川中学校でのくすり教育~

小規模中学校でのくすり教育の取組を紹介される。平成 26 年度から毎年保健体育の授業の一環として実施している。

- 1 取組の内容：事前打ち合わせは重要であり、養護教諭がキーパーソンとなり、保健体育科担当教諭、学校薬剤師と共に生徒の実態を基に毎年授業内容を工夫している。また、毎年事前アンケートを実施し、生徒の薬に対する認識を把握し、授業にはアンケート結果や正答率を織り交ぜながら説明を行う。
- 2 授業の実際：まず養護教諭から、けがをしたときの対処法として、自然治癒力の大きさを説明する。導入として、市販の湿布薬の取扱説明書の内容を見比べて、中学生には不向きな湿布薬があることに気付かせる。その後、薬剤師による薬の説明を行い（アンケートの結果を織り交ぜながら飽きさせないようにする）、最後にグループごとにワークシートに沿って、薬の飲み合わせの実験を行う。
胃薬とジュースの飲み合わせ、カプセルや坐薬、口腔崩壊錠の溶け方の観察も行う。
- 3 成果と課題：連携をとって授業に臨んだため、好評であった。なぜ用法や用量を守らなければならないか、実験を通して理解することができたと思う。ただ健康管理の一環として継続的な指導が望まれるため、さらに3者が連携して健康教育の充実を図っていきたい。

協議内容

指導助言者として特別講演者の磯村毅先生にもご参加いただきました。